

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
1 御浜町	対談項目1 紀勢自動車道紀勢線(新宮～熊野間)の早期事業化について		<p>近畿自動車道紀勢線については、事業が順調に進められている中で、御浜町においても、タイへのみかんの輸出の拡大や、荷いたみの減少、時間の短縮、雨の日の通行止めの解消など、様々な効果が表れています。</p> <p>その一方で、今後想定される災害により、国道42号が通行不能となることが懸念されることを考えると、高規格道路の整備によるダブルネットワークの構築が急がれます。</p> <p>また、平成32年度のRDF終了を踏まえ、現在東紀州地域全体で検討している広域ごみ処理や、計画段階評価が行われてからの年数が経過しているという点からも、近畿自動車道紀勢線(新宮～熊野間)の早期事業化に向け、引き続き地域と県が一体となった国等への働きかけをお願いします。</p>	<p>近畿自動車道紀勢線は、平成23年の紀伊半島大水害を受けて何としても事業化を進めていきたいと考え、県が国に要望していく道路の中でも最も優先順位の高いものの一つとして、次年度以降も要望を行っていきたいと考えています。</p> <p>災害という観点からも、4月に発生した熊本地震の際には、九州自動車道が被災地への救援物資の輸送などで大きな役割を果たし、東日本大震災での「くしの歯作戦」が大きな効果を発揮したように、近畿自動車道紀勢線も、「命の道」として早期事業化をしていくことは大変重要であると考えています。</p> <p>また、最近の要望ではあわせて、今回の紀南病院の改修が、近畿自動車道紀勢線の延伸を見越してなされたということもPRしているところです。</p> <p>加えて、御浜町から検疫が厳しいタイへのみかんの輸出が国内の数少ない成功事例であることや、東紀州への入込客数の増加、東紀州地域内の企業への影響など、産業振興という点からも、紀勢線の延伸は重要です。</p> <p>一方で、計画段階評価完了から来年度で5年となることから、このタイミングを逸することがないように、しっかり要望していきたいと考えています。</p> <p>これまでも本年6月には、国土交通大臣に、本年2月には、和歌山県知事とともに、国土交通省幹部に要望を行いました。国土交通省には8月にも改めて要望を行う予定としています。</p>
2 御浜町	対談項目2 三重県地域医療構想における紀南病院の機能維持について		<p>当地域では唯一の二次医療機関である紀南病院については、急性期機能の維持、充実と救急搬送受入や災害時の拠点病院としての役割りの保持を図るべく、医師、看護師等の確保や病院経営の安定化に努めています。</p> <p>地域医療構想では、病院機能の分化、連携や人口減少に伴う受療者数の減少を見込んだ病床数の削減が議論されていますが、紀南病院の病院機能や病床数については、今後も現状を維持し、三重県地域医療構想に以下の3点が反映されるよう、要望します。</p>	<p>地域医療構想は、少子高齢化の進行による医療需要の変化に対応するため、地域にふさわしいバランスのとれた医療機能の分化と連携を適切に推進するために策定するもので、県では、地域の関係者による丁寧な議論を重ね、地域の特性・実情をふまえた地域医療構想を平成28年度中に策定することとしています。</p>
3 御浜町	対談項目2 三重県地域医療構想における紀南病院の機能維持について	病床数及び病床機能について	<p>紀南病院の病床数及び病床機能については、現在の244病床を基本に、回復期機能とともに地域性を勘案し急性期機能についても今後も維持すること。</p>	<p>新公立病院改革ガイドラインでは、一般病床及び療養病床の病床利用率がおおむね過去3年間連続して70%未満の病院については、病床数の削減などの抜本的な見直しを検討すべきとされています。</p> <p>一方、平成26年度の病床機能報告の状況からは、東紀州地域については、回復期機能の一層の充実が求められるといえます。</p> <p>県では、全県的に病床過剰である状況に鑑み、病床の再配置を柔軟かつ容易にできるよう、医療資源の有効活用の観点から、未稼働病床について実態を把握し、整理していくこととしており、平成28年3月に開催した東紀州地域医療構想調整会議においても、この取組について合意がなされているところです。</p> <p>紀南病院におかれましては、削減対象病床が発生している状況ですが、病床削減を伴う病棟改修等を行っていることから、今回の削減対象とはしないことを予定しています。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
4 御浜町	対談項目2 三重県地域医療構想における紀南病院の機能維持について	救急患者受入体制と災害時医療の拠点病院としての機能確保	<p>紀南病院は、救急救命患者の受入体制や災害時医療の拠点病院としての機能確保を維持し、本地域における中核的な二次医療機関の役割を担うものとする。</p>	<p>受療状況を見ると(高度急性期、急性期、回復期、慢性期、在宅医療等のすべてにおいて)流出超過となっていることなどから、紀南病院の急性期機能については、当面維持していくこととし、その後の人口動態などをふまえながら、地域内の他病院との機能分化・連携について改めて検討していくことが必要であると考えています。</p> <p>なお、以上については、地域医療構想調整会議において検討を頂き、「2025年にめざすべき医療提供体制の方向性」においてとりまとめたところです。</p>
5 御浜町	対談項目2 三重県地域医療構想における紀南病院の機能維持について	在宅医療等の供給体制に向けた連携強化	<p>在宅医療等の供給体制については、開業医の高齢化、看護師などの医療従事者不足など極めて厳しい状況下であり、医療・介護の一体的な取り組みは不可欠です。三重県が中心となった、関係市町、紀南病院、医療機関などとの連携強化を図ること。</p>	<p>在宅医療等の供給体制については、市町と地域の医師会等が緊密に連携しながら地域の関係機関の連携体制の構築を推進することが重要です。</p> <p>県としましては、在宅医療体制の整備に際し概ね必要と考えられる相談窓口の設置やチーム体制などの構成要素を基にした一定の枠組み(フレームワーク)を提示し、市町の取組状況も把握しながら、地域の実情や地域の必要に応じた支援を行っていきます。</p>
6 御浜町	対談項目3 紀南病院における産婦人科診療の再開に向けた専門医師の確保に対する支援について		<p>紀南病院における産婦人科診療については、平成27年9月には分娩受付の休止を、平成28年4月からは婦人科診療の休止を余儀なくされています。</p> <p>ピーク時には3名あった産婦人科医師が現在、0人の状態となっています。</p> <p>紀南病院の産婦人科は、約40年の長い歴史があり、地域に根ざし、住民に寄り添い、出産と女性の健康を守り続けた、この地域にとってなくてはならない診療科です。特にリスクを伴う出産や既往病歴のある妊産婦にとって、身近な総合病院で診察、出産ができるかどうかは、切実な問題です。</p> <p>出産、子育てのしやすい生活環境を整え、若者世帯の定住化を目指し過疎化、急激な人口減少に歯止めをかけるためには、産婦人科の充実が重要です。</p> <p>御浜町としては、紀南病院の産婦人科問題に対して、紀南病院組合の構成市町である熊野市及び紀宝町と連携し、一刻も早い産婦人科診療の復活を図るべく、専門医師の確保に全力を尽くす所存です。</p> <p>県においては、情報の提供や助言など紀南病院の医師確保につながる効果的なご支援をいただき、お願いします。</p>	<p>(産婦人科医師の確保について)</p> <p>紀南病院については、平成28年4月には産婦人科医師が不在となったことから、産婦人科診療が休止となりました。このような状況は、県としても重大な問題であると認識しており、地域住民が安心して出産、子育てができる体制が確保されることが必要であると考えています。</p> <p>県としては、これまで三重大学に対して医師の派遣を要請してきたところですが、三重県の人口10万人あたりの産婦人科医師数が全国平均を下回っており、県内の産婦人科医師が不足している状況にあることから、残念ながら紀南病院の医師確保には至っていません。</p> <p>今後も三重大学への要請を継続するとともに、平成29年度から予定されている新専門医制度では、地域医療の確保が求められていることから、三重大学の専門研修に対する支援など専門医の確保に向けた環境整備を進めることで、産婦人科医師の確保に努めていきます。</p> <p>御浜町においても、引き続き関係市町と連携して、紀南病院の産婦人科医師の確保に向けた取組を進めていただくよう、よろしくをお願いします。</p>